

カリキュラム・ポリシー（2020（令和2）年度まで）

文学部

本学のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の方針に基づいてカリキュラムを編成する。

- 【LCP1】 本学での学びの基礎と人格形成の基盤を築くために、学科の枠を越えて、必修科目として共通基礎科目群を置く。ここには、建学の精神を学ぶ科目、心身の健康を学ぶ科目、英語等の外国語を学ぶ科目、情報科学の基礎を学ぶ科目がある。この科目群は、本学が推進する初年次教育の核となる。
- 【LCP2】 学科の枠を越えて知的素養を培うために共通教養科目を置く。建学の精神につながるキリスト教関連科目、幅広い教養を身につける科目、多様な文化や社会のあり方を学ぶ科目、社会人としての基礎力の育成をはかるキャリア形成支援科目などからなる。
- 【LCP3】 各学科の専門領域を学び、専門の知識・技能を高め広い知見を獲得するために、学科専門科目を置く。
- 【LCP4】 所属学科以外の専門分野を学ぶことができるよう、他学科に専門科目を開放する。また、副専攻制度、資格取得のための諸課程を設置する。
- 【LCP5】 留学やフィールドワーク、学外研修、インターンシップ等、学外での体験・実践を通じて能動的、主体的に学ぶ機会を設ける。
- 【LCP6】 すべての科目に関して、学生の能動的な学修を促進するように、授業方法やクラス編成法に配慮する。
- 【LCP7】 すべての科目に関して、学生が段階的に計画性を持って学修できるように、履修順序、内容レベル、時間割編成に配慮する。
- 【LCP8】 すべての科目に関して、学生の学修が適切に進むように、各科目の到達目標に照らして学生の知識、技能、能力等を形成的・総括的に評価する。
- 【LCP9】 学生会活動やボランティア活動等のカリキュラム外の活動を、体験・実践を通じて学ぶ機会と位置づけ、カリキュラムとの関連に配慮する。

日本語日本文学科

日本語日本文学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の指針に基づいてカリキュラムを編成する。

- 【JCP1】 学生が主体的に調査・考察・発表を行い、学生同士で対話・討論を行う演習科目と、教員の講義によって専門知識や技能を修得する講義科目を置き、学生はその両方を履修する。
- 【JCP2】 日本語と日本文学に関する基礎的な知識と研究方法を修得するための必修科目と、学生自身の興味や関心に応じて選択できる選択科目を置き、学生はその両方を履修する。
- 【JCP3】 1年次・2年次においては、日本語学・日本古典文学・日本近代文学の全分野にわたって基本的な専門知識を修得するための科目を置く。なかでも、我が国を代表する古典である「源氏物語」を重視する。くずし字の読解を訓練しつ

つ、古典文学作品を原文で理解できるようにする。また、課外授業として劇場に赴き、歌舞伎、文楽、能、狂言などを鑑賞する。

【JCP4】3年次においては、各自の興味関心に従い、三分野のいずれかに重点を置き、演習科目を核として、学生が主体的に学修できるようにする。

【JCP5】4年次においては、4年間の学修の総仕上げとして、「卒業論文」を必修とする。卒業論文の作成を通じ、専門的能力と汎用的能力のさらなる育成を図る。

【JCP6】高校での漢文・古文読解・文法に関する勉学を補う科目や、教養としての日本語日本文学を修得する科目を置き、専門知識修得の土台となる基礎的知識の充実を図る。

【JCP7】文学館・博物館等の見学、漢字検定・日本語検定の受検、文学散歩など、学外での学修をカリキュラムに取り込み、学生が多様な体験を積むことができるようにする。

【JCP8】世界言語の中の日本語、世界文学の中の日本文学という新たな認識に立って、グローバルに研究・考察が進められるような科目を設置する。

【JCP9】カリキュラム外においては、日本語日文学会という学生組織を中心とした、学生の主体的活動も学修の一部と位置づける。学外の研究者を招いた講演会・シンポジウムの開催、学会誌の刊行、留学生のバディとしての活動などを通じ、学生の日本語日文学に対する興味関心を一層深めさせると同時に、種々の事柄に対する実践的な運営能力の育成を図る。

英語英文学科

英語英文学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の指針に基づいてカリキュラムを編成する。

【ECP1】 学生が主体的におこなう調査・考察や発表・討論を主とする演習科目と、専門知識・技能の修得を主とする講義科目を置き、学生はその両方を修得する。

【ECP2】 専門分野の基礎や必要な研究方法などを修得するための必修科目と、学生自身の興味・関心に応じて、一分野を集中的にも幅広い分野を横断的にも柔軟に選んで学ぶことができる選択科目を置き、学生は合わせて所定の単位を修得する。

【ECP3】 英語基本技能の修得のための必修科目を1、2年次に置き、大学における研究や卒業後の活動において必要とされる英語コミュニケーション力が修得できるようにする。この際、少人数制のレベル別クラス編成を行い、各人の能力に適した英語学修を可能にする。

【ECP4】 アクティブ・ラーニング、問題解決型学習を導入し、英語技能の必修科目はすべて発表やコンテストなどと連動し、学生が目標を持って学修に取り組むと同時に、授業に加えてさまざまなプログラムに沿って自学を深める機会や、英語での実践的表現力を磨く機会、また、集団での問題発見・解決力を涵養する機会を設ける。

【ECP5】 卒業論文または卒業レポートの作成を通じて、専門的能力と汎用的能力のさらなる育成を図る。

【ECP6】希望に応じて海外における語学研修に参加できるようこれらをカリキュラムに取り入れる。

スペイン語スペイン文学科

スペイン語スペイン文学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の指針に基づいてカリキュラムを編成する。

- 【SCP1】スペイン語の基礎的・実践的技能の修得を目指す語学科目、専門的知識・技能の修得を主とする講義科目、学生の主体的な調査・考察・発表と学生同士の対話・討論を主とする演習科目から成り、学生はそれら三種の科目をいずれも修得する。
- 【SCP2】基礎的な専門の素養や必要な研究方法などを修得するための必修科目と、学生自身の興味・関心に応じて選択履修できる選択科目から成り、学生はそれらを合わせて所定の単位を修得する。
- 【SCP3】1、2年次においては、スペイン語の基本的な文法事項を修得し、「話す、聞く、読む、書く」という四技能の基礎的運用能力を身につける。また、スペイン語圏の文学・文化を学ぶ上で必要となる知識を修得する。
- 【SCP4】3、4年次においては、より高度で実践的なスペイン語能力を磨きながら、原則として学科専任教員が担当するゼミナールに所属し、スペイン語学・スペイン語圏文学・スペイン語圏文化の三分野のいずれかにおける専門的知識および研究方法を学ぶ。
- 【SCP5】自由選択制をとる卒業論文では、専門分野における学習内容を、教員による個別指導のもとに、特定の主題について学術的に掘り下げることができる。
- 【SCP6】学内での授業以外に、一年ないし半年の長期留学、世界遺産等の見学を含む学科主催のスペイン研修旅行、スペイン語検定試験（西検・DELE）の受検など、学外での学修をカリキュラムに取り込む。
- 【SCP7】上記以外にも、スペイン語弁論大会、スペイン語劇、その他学科主催イベントなどの自主的活動を通じて、学生が多様な体験を積むことができるように図る。

文化史学科

文化史学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、以下の指針に基づいてカリキュラムを編成する。

- 【CCP1】専門的能力の育成のために、まず、1～3年次の必修科目および選択必修科目として、演習科目・講義科目・2年次の選択必修科目として入門演習を設ける。前二者においては、本学科で学ぶうる各学問分野について、学生がそれぞれの特徴や研究方法を理解し、基礎的知識を修得することを目的とし、後者では必要な文献や史料読解能力の育成が目指される。そのうえで、4年次の必修科目として、「卒業論文」と「研究法演習」を設け、4年間の専門的学習の総仕上げとしての機能を担わせる。
- 【CCP2】批判的・自律的な思考、広い視野からの考察、独自の洞察の力を育成するために、歴史・美術史・思想史・宗教史の四つの専門分野に関わり、かつヨー

ロッパ・アジア・日本の諸地域にわたる科目を設ける。また、演習科目と講義科目を科目編成の柱とし、前者においては調査・読解・分析・発表・質疑応答・レポート作成等を通じた主体的な学習を狙いとし、後者においては知識や思考法の体系的な修得に力点を置く。

【CCP3】異文化や他者を理解する力を育成するために、ヨーロッパやアジアの現地での歴史・文化・風土・生活を実体験し、異文化についての理解と思索を深めることができる科目として、「文化史学特別演習」を設ける。

【CCP4】授業方法としては、プロジェクターなどのメディア機器を通じた視覚教材の活用や、博物館・美術館の見学、寺社・教会その他の歴史遺産の探訪を含む学外での実地学修などを重視する。

【CCP5】成績評価は、授業内で触れられた主題の理解や解釈、それを応用した独自の分析などを総合して行う。具体的には、テスト・レポート・参加態度等によって授業内容の理解度を測る。

地球市民学科

地球市民学科のディプロマ・ポリシーを達成するために、グローバル社会系 (GLSH)、グローバル・コミュニケーション系 (GLGC)、フィールドワーク (GLFW) の3つの学習領域を設定し、以下の指針に基づいてカリキュラムを編成する。

【GCP1】3つの学習領域の基礎となる研究・調査方法は必修科目 (GLRM) とし、学生は年次ごとに体系的に修得する。1年次のチュートリアルは少人数クラス編成を行い、入学後速やかに大学での自主的な学びに慣れるようにする。同じく1年次の英語科目も少人数のレベル別編成を行い、以後の学修に必要な基礎的英語力と、海外フィールドワークに役立つ実践的英語運用能力の確実な育成を目指す。

【GCP2】GLSH、GLGC、GLFW各領域の選択科目はレベル別に分類し、学生は自分の興味・関心に応じ、レベルに合った科目を段階的に履修できる。

【GCP3】GLSHは、諸分野の基礎をレベル1で、応用科目をレベル3で、応用科目の英語版をレベル4で学ぶ。なお、地域研究科目をレベル2で学ぶ。GLGCは、各分野についてレベル1からレベル4まで段階を踏みながら修得する。

【GCP4】本学科の特徴であるGLFWは選択必修科目である。海外、国内の現場でコミュニケーション能力を駆使し現地の人々と交流しながら、自分の関心のあるテーマについて、情報収集・調査・ボランティア活動等を行う。学内での予備学習→現地での体験学習→学内での総括学習（報告書の執筆等を含む）という循環型学習を行う。

【GCP5】異なる民族的・文化的・宗教的背景を持つ講師を招く機会を多く設け、多文化共生社会の実現に向けての実践・体験を積むことができるようにする。

【GCP6】4年次では、4年間の学びを通じて修得した専門的知識や論理的思考、情報収集・分析・処理能力を用いて卒業論文を作成し、プレゼンテーションを行う。

【GCP7】英語圏に加え、アジアの協定大学への長期の留学も推奨する。

【GCP8】カリキュラム外の活動も重要な教育の機会であると考え、学科等の主催イ

メントや、学科の学生が組織する地球市民学会の主体的活動、学科通信の発行などを通じ、学生が多様な場面で実践能力を身につけ、体験を積むことができるようにする。留学生の受け入れにはバディ・システムを導入し、授業内外で留学生との親睦・交流に取り組むことを可能にする。